

研究会会員診療所のステップアップのためのガイド*

認証の申請、プレゼン、審査(赤エリアのクリアが認証条件)の基準とします。

□□□□□	5段階自己評価, できている分を塗りつぶす 4マス塗りつぶせたら, とりあえず次のステップへ	□□□□□	7
□□□□□		□□□□□	6.共通認識 (自分でハードルをつくる)
□□□□□		□□□□□	5.組織的運営
□□□□□		□□□□□	4.定期的ミーティング
□□□□□		□□□□□	3.ミーティング
□□□□□		□□□□□	2.医院ぐるみ
□□□□□		□□□□□	1.意志表明

A. チーム医療の確立

「健康を守り育てる歯科医療」を実践する決意をスタッフに表明する
ヘルスケア研究会の催しにスタッフと共に参加する
スタッフとのミーティングを始める
院内ミーティング, 勉強会を定期的開催する
院内勉強会の運営をスタッフ主導で組織的に行う
歯科医師および歯科衛生士が疾患を診る共通の認識をもち, ほぼ全員から積極的な意見が出る

□□□□□		□□□□□	□□□□□	7
□□□□□		□□□□□	□□□□□	6.蓄積患者情報の評価と改善 (自分でハードルをつくる)
□□□□□		□□□□□	□□□□□	5.患者情報の蓄積管理
□□□□□		□□□□□	□□□□□	4.患者への診査情報の提供(2)
□□□□□		□□□□□	□□□□□	3.患者への診査情報の提供(1)
□□□□□		□□□□□	□□□□□	2.トレーニング
□□□□□		□□□□□	□□□□□	1.器材を備える

B. 診断情報の提供

規格化した資料(デンタルエックス線, 口腔内写真)を撮る器械および関連器材を備える
スタッフが資料の規格化の重要性を理解し, ルーティンワークとするためのトレーニングを始める
規格化された口腔内写真をスタッフが1人で5分以内で撮影し, それを用いた情報提供をしている
成人について規格化された1口腔単位のデンタルエックス線写真を撮影し, それを用いた情報提供をしている
患者情報(画像情報を含む)を蓄積し, 日常的に検索利用できる
データベースに蓄積した患者情報を評価し, それに基づいて診療を改善できている

□□□□□		□□□□□	□□□□□	7
□□□□□		□□□□□	□□□□□	6.診療所臨床指標の改善 (自分でハードルをつくる)
□□□□□		□□□□□	□□□□□	5.リスクの改善の成果
□□□□□		□□□□□	□□□□□	4.リスク改善と検査
□□□□□		□□□□□	□□□□□	3.診査ガイドライン
□□□□□		□□□□□	□□□□□	2.リスク検査の試み
□□□□□		□□□□□	□□□□□	1.生活習慣などの問診

C. カリエスリスクの気づきと行動変容

家族歴, 生活習慣, 病歴など疾病のリスク因子を把握する問診をしている
カリエスリスクの理解, 患者のリスク改善への理解を深める
修復学的診査にとどまらないカリエスリスクにもとづく診査実施基準を院内で決めている
患者が自分のリスクを知り, 自ら改善するための情報提供の時間を設け, それに必要なリスク検査を院内実施基準にもとづいて行っている
個々の患者のリスク改善の成果を何らかの指標で評価し, 方法を改善し, 再評価している
年齢別DMFTの変化など, 何らかの臨床指標で診療の成果が確認できる

□□□□□		□□□□□	□□□□□	7
□□□□□		□□□□□	□□□□□	6.メンテナンスプログラム
□□□□□		□□□□□	□□□□□	5.確実な初期治療
□□□□□		□□□□□	□□□□□	4.セルフケア支援
□□□□□		□□□□□	□□□□□	3.情報共有
□□□□□		□□□□□	□□□□□	2.歯周組織検査など
□□□□□		□□□□□	□□□□□	1.すべての成人に診査を勧める

D. 歯周病の予防と治療の基本

歯をもつすべての成人に歯周病が予防可能な疾患であることを伝え, 家族歴, 遺伝, 生活習慣, 病歴などを問診し, 診査を勧めている
診査の必要性を理解したすべての成人患者の歯周組織検査と必要に応じたデンタルX線撮影を行う
検査結果を説明する時間をつくり, 患者と情報を共有し, メンテナンス管理の必要性を伝えている
セルフケアの気づきを伝え, 禁煙支援, 食生活改善支援を行っている
歯肉炎および初期歯周炎のコントロールが確実にできる院内システムが整い, 成果をあげている
メンテナンスプログラムを確立し, 多くの患者がメンテナンス受診をつづける態勢と仕組みを整備し, 実績をあげている
歯周組織の改善, 禁煙支援, 食生活改善, 口腔衛生の改善について成績を再評価し, 技術や仕組みの改善につなげている

□□□□□		□□□□□	□□□□□	7
□□□□□		□□□□□	□□□□□	6.診療所の特性把握 (自分でハードルをつくる)
□□□□□		□□□□□	□□□□□	5.人材育成
□□□□□		□□□□□	□□□□□	4.健康手帳・情報管理
□□□□□		□□□□□	□□□□□	3.定期管理器具・器材
□□□□□		□□□□□	□□□□□	2.歯科衛生士のアポイント
□□□□□		□□□□□	□□□□□	1.メンテナンスの重要性

E. メンテナンスシステムの確立

定期的メンテナンスの重要性を治療終了までの間にどこかできちんと説明する
ドクターの診療の合間ではなく, リスクコントロールのための歯科衛生士のアポイントをとる
定期的メンテナンスのための器具, 器材を揃える(十分なキュレットの本数, PMTCの器材など)
健康手帳など自己管理カルテをもってもらい, 情報管理システム(設備, 作業ルールなど)を整備する
定期的来院患者が増加し, それに対応できる人材を確保し育成している
蓄積情報の分析から診療所の特性, 欠点, 実績, 歯科医師, 歯科衛生士などの能力が判定できる